

国立大学法人名古屋工業大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

名古屋工業大学は、地球全体を強く意識し、異なる価値観を相互に尊重しつつ国内外の大学・研究機関と連携し、人類全体の幸福と発展の礎となる科学技術の創造とそれに資する人材の育成を目標として、「ひとづくり」、「ものづくり」、「未来づくり」に取り組んでいる。第2期中期目標期間においては、基盤産業の革新に貢献するリーダーと、新産業の創成に貢献するリーダーの育成を目指し、複線的な教育体系を実現すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「工学のイノベーションハブ」の先駆けとして、次世代パワーデバイスの実用化・事業化に向けた研究開発推進拠点である「窒化物半導体マルチビジネス創生センター」を設立するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

育成する人材像を「基盤産業の革新と新産業の創成を担うグローバル工学人材」と位置付け、学部・大学院の再編を含めた複線教育の実現を目指した平成28年度の組織改組に向けて、グローバル工学教育組織検討委員会で具体案を検討するとともに、研究のグローバル化及びイノベーション推進強化に向けて、研究戦略の策定、国内外のトップレベルの研究機関との連携を推進するため、URA オフィス（リサーチ・アドミニストレーション・オフィス）の設置を決定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- グローバル化に対応できる職員の育成に資するため、職員の英語研修について、能力別クラスや通信教育を取り入れるなどの見直しを行うとともに、海外実地研修を1か月の英語学習を主体とするものに変更しているほか、学术交流協定を締結している北京化工大学より事務職員研修生を3名受入れ、2週間の研修を各担当者が英語により実施するなど、職員の英語力の向上につなげている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
- ③資産の運用管理の改善

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大型外部資金等の獲得に向け、学内説明会や申請書作成アドバイス、ヒアリング前の学長を含む学内リハーサル（プレヒアリング）等の大学の全面的なバックアップに基づいた取組により、外部資金獲得額は 44 億 2,100 万円（対前年度比 14 億 5,600 万円増）となり、外部資金比率は法人化以降、最も高い 18.4 %（対前年度比 4.4 ポイント増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ①評価の充実と公開

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- ①施設設備の整備・活用等、②キャンパス整備、③広報、③法令遵守

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛での寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組を引き続き行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、教員等個人宛の寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生支援体制を見直し、「学生なんでも相談室」に「障害学生支援部門」を設置しているほか、障害学生の授業に同行する「キャンパスサポーター」を新たに配置するなど、学生の修学支援を強化している。
- 名古屋工業大学基金を活用した新たな支援制度として「名古屋工業大学基金名古屋工業大学修学奨励金」を平成 25 年度より制度化し、25 名に 230 万円を給付するなど優秀な学生に対する経済的支援を強化している。
- 「工学のイノベーションハブ」の先駆けとして、次世代パワーデバイスの実用化・事業化に向けた研究開発推進拠点となり、企業等と協働で研究開発を行う「窒化物半導体マルチビジネス創生センター」を設立するとともに、産学連携事業 PR 書籍を発行することにより新たな共同研究の獲得につなげるなど、産学連携を推進している。